

小学校5・6年生むき

# この本よんだ？

夏だ！夏だ！ 特集号 Vol. 2

## ズボン船長さんの話

角野栄子/作 鴨沢祐仁/絵 福音館書店 913.6カ

小学4年生のケンは、夏休みに岡の上に引っ越してきた船長さんと知り合いになりました。船長さんがケンに話してくれたのは、すてきな七つの宝ものにまつわる、すばらしい冒険のお話でした。



## 黒ねこの王子カーボネル

バーバラ・スレイ/作 山本まつよ/訳

大社玲子/絵 岩波書店 933.7ス

ロージーは市場に買い物に行き、ふしぎなおばあさんから、ほうきと黒ネコを買いました。ところがその黒ネコは、魔法をかけられたネコの王子だったのです。ロージーは、ネコの王子にかけられた魔法をとくために、魔法のぼうしと大釜を探します。



## おばけ桃の冒険

ロアルド・ダール/作 田村隆一/訳

ナンシー・E.バーカード/絵 評論社 933.7タ

両親をなくし、いじわるな二人の伯母と暮らすことになったジェームズ君。ある日、ふしぎな老人がジェームズ君に魔法をプレゼントしてくれました。その魔法で大きくなった桃に乗って、ジェームズ君と七匹の虫は旅に出ます。



## ハッピーノート

草野たき/作 ともこエヴァーソン/画

福音館書店 913.6ク

## 西の魔女が死んだ

梨木香歩/作 小学館 913.6ナ



学校へ行くことができなくなったまいは、おばあちゃんの家で暮らしながら「魔女修行」をすることになった。

## ぼっこ

富安陽子/作 瓜南直子/絵 偕成社 913.6ト

小学5年生のしげるは、東京から大阪の田舎へ引っ越してきた。転校先になじめないしげるのところに、ぼっこという少年が現れた。

## クローディアの秘密

933.7カ

E.L.カニグズバーグ/作 松永ふみ子/訳 岩波書店

クローディアは、弟のジェイミーをさそって家出をします。注意ぶかく計画を立て、家出をする場所に決めたのはメトロポリタン美術館でした。ふたりは美術館におかれた天使の像の謎を調べ始めます。



## 名探偵カッレくん

アストリッド・リンドグレン/作 尾崎義/訳

エーヴァ・ラウレル/絵 岩波書店 949.83リ

名探偵になることを夢見るカッレくん。ある日現れた、エイナルおじさんの怪しい行動に、さっそく捜査を開始しますが…。



## 二分間の冒険

岡田淳/作 太田大八/絵 偕成社 913.6 才

悟はダレカという不思議な黒ネコに「時間がほしい」と願いごとをしました。すると、子どもが竜のいけにえになるという、知らない世界へ連れて行かれてしまったのです。

## 銀河鉄道の夜

宮沢賢治/作 岩波書店 913.6 ミ

ケンタウル祭の夜、少年ジョバンニは夜の軽便鉄道に乗って、友だちのカムパネルラといっしょに銀河の星々へと旅をしました。



## 空色勾玉

荻原規子/作 徳間書店 913.6 才

## ユウキ

伊藤遊/作 上出愼也/画 福音館書店 913.6 イ



ケイタが仲良くなる転校生の名前は、いつも「ユウキ」。四番目にやってきた女の子も、「ユウキ」という名前だった。

## シャーロットのおくりもの

E.B.ホワイト/作 さくまゆみこ/訳

ガス・ウィリアムズ/絵 あすなろ書房 933.7 ホ

農場に住む子ブタのウィルバーは、自分がころされて食べられてしまうのを知ってしまいます。ウィルバーを助けるために良いことを思いついたのは、友だちのクモのシャーロットでした。



## パーシーの魔法の運動ぐつ

ウルフ・スタルク/作 菱木晃子/訳

はたこうしろう/絵 小峰書店 949.83 ス

## たのしい川べ ヒキガエルの冒険

ケネス・グレアム/作 石井桃子/訳

E.H.シェパード/絵 岩波書店 933.6 ク

なにもかもすばらしい春の日、モグラは静かな川べで、川ネズミに出会いました。モグラたちは、さまざまな事件をおこしながら、すてきな毎日をお過ごします。



## 指ぬきの夏

エリザベス・エンライト/作 谷口由美子/訳

岩波書店 933.7 エ



とても暑い日、ガーネットは川で銀の指ぬきを見つけます。その日から、新しい納屋を建てたり、冒険や家出や子ブタの博覧会など、ガーネットにとってすてきなことばかりの夏が始まったのです。

## 霧のむこうのふしぎな町

柏葉幸子/作 杉田比呂美/絵 講談社 913.6 カ

六年生のリナは、夏休みを過ごすためにお父さんにすすめられた「霧の谷」にやってきました。そこで出会ったのは、かわっているけれど楽しい住人たちでした。

## 走れ、セナ!

香坂直/作 講談社 913.6 コ

## 床下の小人たち 小人の冒険シリーズ1

メアリー・ノートン/作 林容吉/訳

ダイアナ・スタンレー/絵 岩波書店 933.7 ノ

ある古い家の床下に「借り暮らし」の小人の一家が住んでいました。小人たちには、人間に姿を見られてはいけないというおきてがありました。

